


グループホーム 八重桜

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「共生」～共に生きる～という理念を掲げている。「地域密着型サービス」の「地域」と言う文言はないものの「地域」を含めて「共生」～共に生きる～という内容である。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		「地域密着型サービス」としての事業所の理念という事も今後検討していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		理念を事業所内に掲示している。入職時のオリエンテーションでも必ず説明している。また年間目標を立て意識的に取り組んでいる。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		パンフレットや入居時、運営推進会議の場で説明している。また、事業所の家族向けの新聞や法人の機関紙等も活用している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		敷地内の介護老人老健施設の利用者や職員とも日常的な近所づきあいがなされている。また日頃の買物も地域の商店(八百屋・魚屋・雑貨屋)を利用し馴染みの関係が出来ており交流もはかれている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域行事や公民館での活動に参加し地域の方々と交流している。また地域の方のご自宅のお庭に紅葉の見頃な頃に毎年ご招待いただく等地域の方々との交流もはかれている。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域の公民館で認知症に関する講座で講師として協力させて頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	意義を理解し取り組んでいる。		評価を活かすためにも今後は計画的に取り組んでいきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	地域の方からの提案で入居者の活動の幅が広がっている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の研修(他施設実習・職場体験)の受け入れをしているので日頃から担当者との情報交換等の機会は得られている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修に参加し学ぶ機会が得られているが、現状では支援するまでには至っていない。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	施設外研修に参加し学ぶ機会が得られている。また委員会や施設内研修でも改めて事業所内で虐待が見過ごされないか振り返る研修を行っている。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間をかけ確認をしながら説明を行い理解・納得を図っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日頃より何気なく声をかけ要望を聞くようにしている。ケアプランのアセスメント時も利用者の声を聞くようにしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族に応じてメールや電話、面会時に報告している。また家族向けの新聞を毎月作成し郵送している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	外部の相談窓口を紹介したり、請求書にアンケートを同封したり、玄関に提案箱を置いている。またケアプランについても意見を聞くようにしている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	申し送りや日々の業務の中で話し合う場がある。また個人面談や理事宛の手紙等の機会もあり運営に反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の急変時やイベントの際は変則的な勤務で対応している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	個人面談を行い異動や離職を抑える努力をしている。また代わる場合は利用者と一緒に別れ会を行い利用者に伝える場を持っている。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>入居者からの介護へのニーズを考慮し職員の性別に関しては考慮している。また就職後も施設内、施設外の研修に参加する機会がある。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>外部研修に参加している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階や個々の状況に応じて研修に参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修に参加した際に同業者と交流する機会が得られている。また近隣の事業所ともドライブ先で利用者同士の交流する機会もある。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者による個人面談や職員相談シートを活用し職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者への手紙や面談等の機会が得られている。また職員の研修の機会も得られている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に自宅の訪問や事業所に見学に来て頂いて本人とコミュニケーションをはかり今後の不安を軽減できるようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から本人と家族からこれまでの経過や今後の希望や不安な事について聴くように心がけている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとってどのようなサービスが必要か本人と家族と一緒に考えて対応している。(これまでに訪問マッサージを利用した事あり)		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅の訪問や事業所に見学に来て頂いて本人とコミュニケーションをはかり可能な限り環境の変化による不安感を取り除くように配慮している。また慣れ親しんだ家具等も居室に持ち込んで頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との時間を大切に、理念にも「互いに助け合う」ことを掲げている。また日々のなかでも利用者の得意分野である事については相談しアドバイスを得て一緒に取り組んでいる。		今以上に利用者それぞれの思いや願いを大切に「互いに助け合う」関係作りに努めたい。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	対応に困った時などは家族に相談し情報交換等しながら対応にあたっても協力を得ている。		家族により個人差があるので今後とも食事会等継続的に働きかけていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に本人の昔の話を聞いたり、本人と家族の関係の理解に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先も本人の話を聞き一人一人に合わせ行っている。(遠方の里帰り・墓参り 等)また入居後もかかりつけ医が継続して受診できるよう支援したり、年賀状のやり取りの支援もしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人のペースが大切にされているので利用者同士の関係が希薄な部分もあるが、利用者それぞれの時間の中で一緒に外出したり、一緒に歌を歌ったり、一緒にお茶を飲んだりして関係性が築かれている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の施設や入院先に面会に行き退居後も利用者や家族との関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際に「本人の願いや支援して欲しい事」を大切にしている。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人と家族にこれまでの生活歴を聞きその情報を職員で共有している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出勤時に記録や申し送りで確認したり他の職員からも情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者からも意見を聞き意見やアイデアを集約し介護計画を作成している		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じ計画を見直し新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々時間ごとに記録を残している。また気付いた事や職員で共有が必要な事は申し送りする。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人が母体であるため医療面で24時間対応できる連携体制がある。また敷地内の介護老人保健施設のカルチャーや行事に参加ができ活動や交流の幅が広がられる。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校や保育園との交流会や地域行事等に参加している。地域の方の庭のみみじ見学へ毎年行かせて頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	敷地内の介護老人保健施設のカルチャーや行事に参加している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で地域包括支援センターと情報交換をしている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望によるかかりつけ医に受診できるように支援している。受診時は職員が付き添いをしている。また遠方の病院については家族に相談し協力を得ている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医への受診や相談もできる関係が築けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の病院の医師や看護師、また敷地内の介護老人保健施設の医師や看護師からも24時間の相談や対応の協力が得られている。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時はこまめに面会に行き家族や病院から情報を得ている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	病気の進行等の変化によって本人や家族の気持ちも経過とともに変化するので、その都度重度化や終末期についての話し合いをしている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	かかりつけ医の協力を得ながら、必要に応じ勤務体制を変更して対応している。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	ケア関係者で十分な話し合いや情報交換を行っている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	言葉かけや対応については誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の意思の確認をして行動するようにしているが、入居者によっては意思の表出が十分できているかどうか判断が難しい場合もある。可能な限り本人の思いが叶えられるよう支援している。(例 外出先、食事内容、飲み物・・・等)		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診の付き添いや入浴介助等によって全ての利用者の希望に添えないこともあるが、出来る限り入居者のペースに合わせるようにしている。		今後も職員側の決まりや都合を優先しないように一人一人の希望を大切にしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望がある利用者には対応している。希望を伝えるのが難しい利用者には家族と相談し対応している。衣類については外出で衣類を買いに行く機会もある。		利用者によって個人差もあるので、個別的な内容や頻度についてはまだ検討の余地がある。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員と一緒に食べている。また好みや体調に応じてメニューや食事形態を変え対応している。食器類も個々に応じた物を使っている。		食後の食器拭きに関わる利用者は居るが、調理や配膳に関わるような支援はまだ不十分である。今後も利用者の希望や状況に応じて食事が楽しみになる場となるよう支援していきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	刺し身の日にお酒を楽しんだり、日頃の飲み物も複数の選択肢の中から選択して頂いたりしている。		
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人のしぐさやパターンに応じて排泄の支援を行っている。		薬(下剤)に頼っている部分もあり、利用者によってはまだ十分な対応が出来ていない。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人一人のタイミングや希望を確認し可能な限り対応できるようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれ異なる 眠れない時は職員が個別に対応している。昼寝の時間もとれるよう個別的に支援している。		就寝介助が必要な利用者は職員の都合に合わせた就寝時間になっているかもしれない。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割や楽しみがあればそのことについて話をしたり日中の活動や季節の行事に取り入れたりしている。		利用者によっては不十分な方もいる。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に現金を持っている利用者もいるが使う機会はほとんどない。		まだ一人一人の希望や力に応じて検討する余地あり。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	役割や受診等がない限り、ほとんどの利用者が事業者の中で1日を過ごしている。		まだ一人一人の希望にそって外出支援をする必要がある。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	敷地内の介護老人保健施設の企画で家族参加のピクニックを実施した。		今後とも計画的に実施する必要がある。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを行ったり、年賀状を一緒に書いたりしている。		頻度も含め利用者一人一人で個人差がある。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂けるようにお茶を出したりお見送りするように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や委員会活動に参加して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設は屋内からは自由に出入りができる。居室も本人の意思で施錠ができる。鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録や日誌の中で時間ごとに所在の確認をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守りの中で危険と思われた場合のみ場所を変えたり保管、管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修に参加し学ぶ機会が得られている。事故については書類を残し共有したり改善策を考え事故防止に取り組んでいる。		まだ色々な状況を想定した研修が必要。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練、勉強会、研修会の実施		今後定期的に救命講習の参加も検討していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網の整備。敷地内の介護老人保健施設の協力は得られている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明時や病気の経過の際に今後起こりうる事について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、晩、入浴前や必要時にバイタルチェックを行っている。記録や申し送りを確認し職員間共有、必要に応じて医療機関に相談し対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量については理解しているが、細かい副作用までについては十分でない部分もある。薬の変更があった場合は症状の変化を注意している。		今後も薬の知識を深めていきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々に応じて対応している。水分補給の確認や食事の工夫や勉強会等の取り組みをしている。		身体を動かす働きかけについては検討の余地がある。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別に対応している。義歯を使用している利用者は週一回義歯洗浄剤で汚れが生じないようにしている。		毎食後は行えていない利用者もいる。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量を主食と副食に分け記録している。1日の水分量も記録し栄養や水分が確保できるように支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を入居者、スタッフも行っている。勉強会や委員会もあり予防や対応の取り決めがある。利用者の日々のバイタルチェック、手すりの消毒、職員の健康チェック、定期的な換気、マスクの着用、家族や外部の方へ予防にあたっての協力の依頼。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、マスク着用、検食、調理器具の消毒。食材もその日ごとの発注をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	落ち着いた雰囲気であるが介護老人保健施設の敷地の奥にあるため地域に面した道路からは見えないので出入りしやすい雰囲気ではない。花を飾ったり、お出迎えをしたりして居心地のよい環境づくりに取り組んでいる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には様々な植栽があり季節を感じる事ができる。		新しい利用者も入居されたので音や光については改めて検討する余地がある。

グループホーム 八重桜

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように各所にイスを配置している。食事場所も3箇所に分け利用して頂いている。		今後も利用者の変化に応じその都度検討していく必要がある。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の使いやすいもの、日頃より馴染んだものを持ち込んで頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気や手すりの消毒をしている。温度計や湿度計を設置し加湿器も活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなく手すりもあり安全に過ごせるように配慮されている。夜間は足元の電気や共用トイレを照らすライトがあり自立した生活が送れるよう工夫している。		今後も利用者の変化に応じその都度検討していく必要がある。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時計やカレンダーの設置。夜間のトイレのライト。利用者の個室の扉のデザインがそれぞれ違う等、工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には色々な植栽があり季節を楽しむ事ができる。建物内から見える所に花を置いている。外に出での活動は季節や利用者によって差がある。		

グループホーム 八重桜

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 八重桜

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月作っている利用者や家族向けの新聞・家族への報告、連絡、相談をこまめに行っている・静かで落ち着いたゆとりのある住環境・居室も日当たりが良く明るい・庭も広く緑に囲まれていて季節感が感じられる・食事が美味しい 等